

第9回 南九州市議会議員定数等調査特別委員会 会議録

令和5年2月1日(水)

委員会室

(開会 11:30～)

1 政務活動費について

○西委員長 それでは、ただいまから議会定数等調査特別委員会を始めます。

1番目の政務活動費について、協議していきたいと思いますが、事務局のほうから説明を。

○川崎書記 会次第ともう1つ資料のほうをお渡ししておりますけど、これは先日、市議会議長会の資料で冊子をお渡ししましたけれども、その4ページがうまく印刷されていませんでしたので、その部分になります。よろしくお願いします。それと前回の政務活動費のことについて、協議の中で始良市のほうの精算払いはどういうものかという質問がありましたので、そこについて始良市のほうにお聞きしたところ、始良市の場合は上半期と下半期に分かれておりまして、この精算払いというのが、ほかのところは概算払で、当初にもし年間12万円の政務活動費を補助としている場合、当初の4月にその金額をお渡しして、議員の方が使って、最後に収支報告書等を出して精算する形なんですけど、始良市のこの精算というのは、最初はお金のほうはお渡ししませんけど、この上期半期の10月にお渡しする形で、そこまでは自費で立替え払いとなりまして、領収書等持って行って、それをもとに政務活動費をお支払いするということでありました。以上です。

○西委員長 今、資料等を含めて説明がありました。それでは先般、事務局のほうから資料をいただいて、それぞれ確認してきてほしいということを申し上げてございました。いろいろ議論をすると長くなると思います。もうこの資料見ていただいて、それらで判断をどういうふうにということとされたと思いますので、もうできたらこの政務活動費の在り方について、順番にそれぞれ意見を述べていただきたいと思います。そういう形でよろしいでしょうか。

(「はい。」という声あり。)

○西委員長 それではもうそのようにさせていただきたいと思います。1番の西山議員から順番に考え方を述べていただければありがたいです。まず必要か、不必要か述べていただいて、さらに必要と思う方はその活動費が年間どのぐらいだとか、例えば、先ほどありました、精算払いまでとか、事前払いとか、そういうところまで、必要であれば述べていただきたいと思います。それではお願いします。

○西山委員 私は政務活動費については賛成です。なぜかといいますと、やっぱり議員個人のいろいろな制約がある中で、やっぱりいろんなことをしようとすれば、どうしても必要になってくると思います。月に1万の12万で精算払いにすれば、要らない人は別に使わなきゃいいわけですし、必要な人はその中で活用していけばいいと私は思って賛成です。

○取違委員 私は今、現状で足りているので物価高騰もあるので、市民の皆さんの反応から

すると、現状のまま必要ないというふうに思っております。皆さんの意見に従いますが、もし、それがということであれば、西山議員と同じように月1万円ぐらいが適当ではないかという形だと思っております。以上です。

○上赤委員 私は今の段階では不必要という言葉はどうかと思いますけど、今ちょっとそのタイミングじゃないなと思っております。これまで示された資料等で南さつま市、枕崎市の近隣も政務活動費はない状況が確認されています。

その中で指宿市は議会政務活動費の交付に関する条例、そういうものを制定して運用していますけど、見てみれば月額1万円、年間で12万円となっているようです。そして年度末に収支報告書を提出して、使わなかった残額は返還するというような動きになっているところでございます。令和3年度の状況、指宿市ですけど、ちょっと確認してみたら、対象経費の会議費、人件費、事務費、事務所費ですかね、そういうものの使用は全くないようで、資料作成費、広報費、資料購入費の使用が多くなっています。その中での交付率が全体としては4割程度となっているような状況のようです。

また、最初から見てみれば、全く交付申請していない議員や、そして全く使わないで全額返済しているという議員が約3分の1程度いるようです。そして逆に満額使っていると、その額に近いものを使っている方々が3分の1程度、その残りの3分の1程度は、その半額程度使っているような指宿市の状況ですけど、そういうような状況のようです。

現在、南九州市は福岡を対象とした予算計上によって研修等ができる環境ができていますので、政務活動費の計上によっては現在の予算が削除される可能性があるという前回のときに事務局からの説明があったと私記憶しています。前回、私は議員報酬等の期末手当の基礎額算定に関する加算率の説明があって、年4万円ほどが増額される見込みだという説明がありました。私は議員定数が減となる今は他市との換算率を統一するタイミングじゃないかという立場を申し上げたところでございますが、この増額分が資料作成費や、資料購入等に充てられると考えれば、現在の近隣の状況、アンケート、それと物価高騰の状況などを鑑みてみたときに、政務活動費を今出すタイミングではないと考えています。

そのようなことで私は今は不必要というふうに考えているところでございます。以上です。

○大倉野(由)委員 今、上赤委員が発言されました。ほぼ同じ意見です。今の段階ではですね。

○米満委員 私もこの政務活動費については不必要であるというふうに考えています。それは今の現在こうしていろいろ旅費等も毎年20名の福岡とか組んでもらっていますので、地域での活動というのに、この政務活動費が要るのかなあというふうに考えていますので、私は不必要ということです。

○大倉野(忠)委員 先日新聞等で掲載されていたように議員の成り手不足ですね、様々な対策を行っている議会もあって、報酬を上げたりとか、あるいはこの政務活動費がありましたけども、そういう対策をとった中でもなかなかこの議員の成り手が増えているわけではないというような回答もありました。私はそもそも議員報酬自体が政務活動をするために報酬の中に含まれているというふうにも考えております。

前々回だったか、1回採決をとったときがあったと思うんですけども、必要ないという方が8名、それから必要な方が11だったですかね。そのときはやり方によってはということ

で、私はそちらのほうに手を挙げましたけれども、今、申し上げましたように、そもそも政務活動費は必要ないというふうに思っておりますし、その活動自体が公費を使って、市政あるいは施策にしっかりと反映されていけばいいですけれども、個人の見聞を広めるための活動であっては何の意味もないというふうに思っております。また、慢性的な課題であったり、喫緊の課題は所管事務調査等をして調査研究をして、提言したり要望したりしておりますので、政務活動費は必要ないというふうに考えております。以上です。

○**鮫島委員** それでは鮫島のほうから申し上げます。私も、もう皆さんと同じ必要なしというでございます。非常に当初からこの政務活動費というのはすごく使い勝手の悪いようなもので、ちょっと自分には余り必要ないかなということで考えております。以上です。

○**日置委員** 私は、結論から言うと不要です。最初は必要だと、この委員会が始まる第1回のときは言っていましたが、市民アンケートをとって、非常に理解がまだ進んでいないという状況を鑑みて、やり方によっては必要だということで手を挙げましたが、この2か月間自分なりに考えて、そのやり方が見つかりませんでした。以上です。

○**川畑委員** 私が最初の意見では、やっぱりやり方によってはあったほうがいいというふうな考え方だったんですが、いろんな資料をもらってみて、ものすごく使い方がもう少しまだはっきり分らないという面があります。

だから私としては、今のところもう必要ないと言い切れないところがあるんです。実際まだまだ調査をして、本当にどういうもので使えるのか、今の現状の研修をやっているの十分なのか、それ以外に使うことができるのかということも考えていかなきゃならないので、アンケートを見ても24%が必要ではないかというような4分の1は必要ではないかというような考え方もありますので、私はまた継続調査をしたほうがいいと思っております。

○**内園委員** 私は必要ないと思っていましたが、せっかく議員に与えられた権利でもあるということを考えたときに、どうなんだろうかっていうふうな悩みもあります。それと、全然使わないで、指宿の上赤委員の説明の中で、指宿市の使い方として、全然使わないで返納しているというのがあったりすると、研修というか、個人的にそういうふうに使わなかった人はもう返せばいいし、本当に必要だと思う人は大いに活用したほうがいいんじゃないかなっていうふうな考えに今なっております。そういうのが年間で必要であれば、やっぱり1か月1万円ぐらいかなと思います。

○**西委員** 現在の研修旅費体制でいいのではないかと思います。なかなかこう一人一人に政務活動費を充ててというのはちょっと事務的にも煩雑だし、先ほどありましたように議員報酬の中で活動はできるんじゃないかと思っております。以上です。

○**今吉委員** 私は必要なしと思います。以上です。

○**菊永委員** 政務活動費について、市民アンケート等で見ますと、もうほとんどの方がアンケートの中では、知らない人もいますけれども、必要ないんじゃないかっていうようなのが大多数でありました。また、前の会議の委員会でも申し上げましたけれども、研修等について、事務局で持っている予算というものがあるというようなことであれば、そういう機会を得て九州管内等の予算を組んでいるというようなことでありますので、特に、政務活動費という名目の中で、議員に月1万なりというような話も出ているようですけれども、私の考えでは、今のところは必要ないんじゃないか、現状のままでいいんじゃないかっていうのが、

最終的な私の考えとして、状況が変わればまたそれぞれあるかと思いますが、今のところは必要ないというふうに考えております。以上。

○**蔵元委員** ある程度道筋はつくるべきではないかと、先ほど大倉野忠浩委員も言いましたけど、新聞を見たときに、やはりなり手不足の部分が書かれてありました。そういうのも考えながら、これはやっぱり負のイメージをすごく皆さん、市民の方も含めて持ってらっしゃるんですけれども、今までのやり方が悪かったんだと私は思っています。ちゃんとした使い方をすれば、これはちゃんと議員としての活動する権利だというふうに考えていますので、一応、私は賛成で、金額に関しては先ほど言った12万で大丈夫だと思うんです。

○**竹迫委員** 結論から言いますと、私は必要ないと思います。いろいろこの前の新聞にも議員のなり手不足とか云々出ていましたが、これは私が考えるに金額じゃないと思います。これは選挙というハードルが1番ネックだと思います。4年したら保証がないわけですから、そういうこと等で、なり手不足がということで政務活動費、第2の報酬とも言われたりしますけど、そういうこと等からですね。

それと年間、平の我々でも4百40、50万の年間報酬があるわけです。こういうこと等を考えると、市役所の職員の給料とか、それから農家さんの収入ですね。農家さん等は夫婦とか、親子4人とか、そういうことで経営して、やっているわけです。そういうこと等からすると、農家さんの収入、サラリーマンの収入からしますと、これは決して低い額じゃないと私は思っています。議員報酬、これにまだプラスして政務活動費をよこしてくださいということは、時期的にも1番悪いと思います。いろいろ、ウクライナ情勢とか、そういう世の中が厳しいときに、こういう話を進めるということは言語道断だと、これは必要ないと思います。

○**浜田委員** 私は政務調査費というのは、報酬の中に含まれているという考えを持っておりますから、さらに、時期的に見てもこの政務調査費を自分たちで決めるということはふさわしくないから、不必要と申し上げておきます。

○**松久保委員** 政務活動費については私も不必要だと思っております。今、市民の方々が、感染症が長く続いて、非常に生活が疲弊困窮をしております。こういう中でさらに議員の使う政務活動費を決めるということは、市民の理解はいただけないと思っております。先ほども出ましたが、それなりの報酬等は十分に与えられていますので、1万から2万円程度の交付額であれば、その中から支出をして、ぜひ使っていただければと思っております。以上です。

○**加治佐委員** アンケートの結果もですし、もともと私は不必要というふうに思っております。出水の議員が1か月ぐらい前に、本市に政務活動費を使って活動しにきました。聞いてみますと、出水は年間、月に1万5千円で年間18万ということですが、その中で5名はもう不必要と、もらってないと、またある人は研修という名目で北海道に行ったりすると、そういう話聞きまして、なおさら不必要というふうに思いました。以上です。

○**吉永委員** 私はもう当初から必要であると思います。アンケートはあくまで参考でありますし、政務活動費としては、やり方もちゃんと出ておりますので、先ほど川畑委員がありました。それぞれの自治体で会派制だったり、報酬等も変わっていると思いますが、基本的にうち政務活動費がなくて、どうにか研修に行けないかということで、福岡までの、当初は大阪、東京までだったのが、今、福岡になっている状況です。必要か必要でないか、それぞれ

の方の見解と考え方ですが、いつ変えるのかと逆に思います。時期、時期と言って、確かに大変な時期でもありますよ。だけど改選した後に、また改選で調査して研究するのか、ある程度やはり道筋というのは大事なかなと思って、改正できるのであれば、やはりすべきところも研究して取り組むべきだというふうに思って、私は必要だと思います。月額1万円で、使わない人は使わないで、先ほど申し上げたところも精算できているので、そういった情報の公開もしてありますので、この金額で必要かと思います。以上です。

○**山下議長** 大方の方が、不必要、不要だと述べる中で、私は今日最後ですけれども、私は最初から政務活動費は必要な経費ではないかということは述べてまいりました。先ほど、反対の方の意見の中に、個人のただ見聞を広めるだけであれば、もうそういう使い方しかないという方もいるかもしれないし、そういうものはもう本当に言語道断だと思うんですが、市民の理解が得られない。アンケート調査によるとですね。市民の理解を得られる活動、これはもうこれだけのお金をかけてこういう活動をしたんだな、こういう活動をして、市政に反映をしてくれるんだとか、真にスキルアップをして、議員がスキル研修やらを受けて、スキルを高めて、そして市政に反映をさせていく。そういうことに直結する活動費であれば、私は認めるべきではないかなというふうに思っております。もう単純にどこか遠方へ研修に行くとか、それだけの活動費ではありませんので、さっき指宿の例が出ましたけれども、パソコンとかもその活動費で購入が可というのもありました。これはでも本当に議会活動のためだけにパソコンを使っているというふうにはなかなか市民には見えないだろうな、示せないだろうなっていうのもあったんですけれども、使い方によってはですね、それが議員活動に生かされる備品にもなるわけですので、金額的には先ほど月額1万円と言われましたけど、月に1万使うということではなく、年間12万円という設定をしていただいて、本当に使わない人は、それは返還できるわけですから、ということで活動費は私は必要だというふうに思っています。以上です。

○**西委員長** 各個人の皆さんの意見をお伺いしました。5名の方があったほうがいいんじゃないかという御意見でございました。大方の方は、現状のままでいいんじゃないかという御意見でございますが、もうどうしますかね。もう最終的に今日結論を出したいと思うんですが、現状ではもう今、旅費を組んで福岡までの研修を組んでおりますが、このやり方で進めていいですか。

（「はい。」という声あり。）

○**西委員長** 皆さんの御意見を聞いたら、5名の方があったほうがいいという御要望でございますが、なかなか全員の意見がそろわない中では、現状のやり方で進めてよろしいですか。

（「はい。」という声あり。）

○**西委員長** それでは、もうこの政務活動費については、現状の旅費の中で研修をしていただくということで進めたいと思います。政務活動費については終わります。

2 その他

○**西委員長** 2番目のその他ということで皆さん方から何かございますか。

○**日置委員** 結論から言うと、アンケートをもとにした何かしらの議会としての活動ということはできないのかということをお願いしたいです。というのは、今回の特別調査委員会の

3つの項目の1つ目は、議員定数、人口減少等ありました。2つ目は議員報酬、これは話の流れとしては成り手不足の話からきています。3つ目の政務活動費は議員の資質の問題でした。この2個目の報酬のなり手不足については、実際アンケートをとって見たら何が原因なのかっていうと、報酬ではなくて、議会に対する無関心とか、先ほどほかの委員もありましたけど選挙の負担とか、議員の仕事に魅力がないとか、この選挙の負担については公費、公営でひとつ答えが出ていますけど、議員の仕事に魅力がないとかというのは、まさに私たちに魅力がないと言われたように思うんですけど、こういうことを受けて、せっかくアンケートをとったので、このアンケートをとって、こういう課題があったからこういう活動をするってことが一つでもあればいいなということを2回ぐらい前に言わせていただきました。

それに対して、それはこの委員会じゃなくて、ほかのところで話し合えばいいんじゃないかという意見もあったと思うんです。その点について、今後の取扱い、もうやらないやらないで別にいいわけですけど、みんなで話し合うことですから、答えだけ出していただければありがたいです。

○西委員長 今、その他のところで日置委員が言われました。このなり手不足はですね、やっぱり議会全体で活動する中で、PRを進めていかないとなかなか簡単には解消しないと思いますが、それについては今後、皆さん方のいろんな活動の中で話し合いを進めていっていききたいと思いますが、そういう取組でよろしいでしょうか。

(「はい。」という声あり。)

○竹迫委員 そのなり手不足をどうしようということを、この議会で議論していく必要があるんですか。これはなり手不足、少ない、いないと言いますが、私は最初選挙に出たときは無投票じゃらせんかと。それこそ1週間ぐらい前まで言われました。しかし、1人が手を挙げて選挙になったんですが、それから、どこの市町村でも立候補する人はそんなに多くないでしょう。30年、40年前と今も違ってないと思いますよ。そういう前でもオーバーするのは1人か2人、3人とか、どこの市町村でもそんなもんですよ。ですから、なり手不足だ。何だかんだと、どっからきているのかなと。私はそういう疑問を持っています。この点については先ほど言いましたが、1番のネックは選挙ですよ。それで、受付順だとか、抽選だとかやったら、わんさと出てきますよ。これはそうじゃないですか。それでなり手不足を云々というそんな議論をする必要はないと私は思う。以上です。

○西委員長 このことについては先ほどのこの政務調査費と同じようですね、個人、それぞれ意見が違ったり、意見があると思います。先般の南日本新聞では、全国が無投票の議会とか報道されておりました。その中で一部でやっぱり市民と語る会の中でそういうPR活動もしているというところもあったようです。これについては新聞報道でしたので、ここでもうこうということではございませんが、いろんな機会をとらえて議論をしたほうがいいのか。そこは今、竹迫委員があったように、もうそこまではする必要ないという御意見も出ましたけれども、それについてはまた今後協議する。あるいはしない、もういいんじゃないかということですね、機会をとらえてまた話ができればと思います。

○日置委員 すいません。私の発言の趣旨がうまく話せてなかったのは、なり手不足の問題じゃなくても、それはいいのかもしれないんですけど。要は、アンケートをとって、具体的に何か1つでも行動があればいいなという話です。アンケートというのは参考にするのです

から、個人、個人の議員が参考にしてもいいし、議会全体としてアンケートをとってこうだったから、こうしてみようというのがあってもいいと思うんです。これが公費を使ってやっているってところもあるので、アンケートをとってこういう問題意識があったから議会としてこういう課題解決に取り組もうという動きがあればいいなというふうに思いまして、その一つが私はなり手不足だったということです。いろいろな考え方がもちろんあると思うんですが、得られたアンケート結果を最大限活用したいなということです。以上です。

○菊永委員 もう時間もきてるようですけれども、アンケート、アンケートということあります。私たちはこのアンケートを見て、定数等についても、今回どうするかと、アンケート等をもとに2減というのが多くて18名という形で決定をさせていただきました。

それと公費等についても、次回の選挙から公費も投入されます。そういう観点から、政務活動費、あるいはなり手不足とかいろいろなことが出ていますけれども、何か意見があったら、その都度その他という協議事項等が、その他の中でということでもありますので、何か言いたいことがあれば、そのときに協議をしてやっていけばいいんじゃないかというふうに思っております。私はしっかりとアンケートに答えて、今回も定数等も減になったというようなこともありますので、そういうことでも今のところはこういう形でいいんじゃないかというふうに思っております。以上です。

○吉永委員 確認というか、今の日置議員はアンケートの実際の課題がいろいろある中で、議会として、全体ですよ。議会活動で市民との意見交換会をやっているけど、そのほかに課題をもとに何か取り組んだらいいんじゃないかなってという提案ということじゃないんですか。今後、先ほど委員長が言われた、議運なり、そういう皆さんの御意見があれば、新たな活動として、また協議を図ればいいのか。ただここでする、しないのではなくて、やはり、これを元になり手不足だけじゃなくて、現状として、議会報告会以外に議会広報活動としても、何か取り組むべきか、取り組むべきじゃないか、議会活性化について何か皆さんで御意見を出していただければ、今後、協議できるかなと思います。以上です。

○大倉野(忠)委員 特別委員会でも話をしたような気がするんですけども、委員会構成についてです。常任委員会、それから、議会運営委員会も含めてですけども、構成についてです。議員定数も今回18名になりましたので、委員会構成をそのままいくのか、3委員会いくのかですね。それと含めて議会運営委員の構成についても1回議論をする場はあってもいいのかなと。今年も改選ですけども、できれば改選前にそういった議論する機会があればいいなというふうに思っております。以上です。

○西委員長 ほかにないですか。いいですね。

(「はい。」という声あり。)

○西委員長 それでは、本日の議会定数等調査特別委員会を終わりますが、あと経過としてはですね、3月議会で委員長報告として、この3つの問題を報告して、この特別委員会を締めたいと思いますが、そういう段取りでよろしいでしょうか。

(「はい。」という声あり。)

○西委員長 それでは、報告については、委員長、副委員長でまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(「はい。」という声あり。)

○西委員長 そのようにさせていただきます。本日の特別委員会を終了したいと思います。
御苦労さんでした。

(閉会 12 : 02)